

体育学・スポーツ科学連携大学院
教育プログラム開発プロジェクト

令和6年度 プロジェクト実施報告書



鹿屋体育大学

本報告書は、文部科学省の補助を受けて平成 25 年度から取り組んできた「体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発プロジェクト」の令和 6 年度の内容をまとめたものです。本プロジェクトは「身体教育とスポーツ科学の高度な専門的知識を備えた指導者を育成すること」を目標として、本学大学院博士後期課程をコアに九州の各国立大学間で連携を組み、大学間での研究指導・講義、研究セミナー、共同講義などによって「体育学・スポーツ科学」の連携教育プログラムを推進しております。

今年度は昨年度からの継続として、活動範囲もこれまでのスタイルに戻った形で取り組んでまいりました。活動内容としては、体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムワーキング会議、同開発委員会、同協力者会議を定期的に行い、連携校の拡大に係る検討、連携大学院交流会の開催、本教育プログラムの入試説明会等を行ってきました。特に、本プログラムの広報の拡大を目指し、学位取得者の経験談など新たな内容を取り入れ、ホームページの改善を図りました。また、今年度は博士課程の連携教育プログラム（本学、熊本大学、宮崎大学、福岡県立大学）を開設し、その中での共同講義として「体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ」のオムニバス科目を集中講義形式で 2 名の学生を対象に、講義は遠隔方式で開講しました。また、連携大学の拡大として現在数校の大学との協議を進めており、修士課程・博士後期課程の拡大を行っております。さらに、本年度は昨年度、博士課程で 1 名が学位を取得し、修士課程でも 1 名が終了いたしました。このような結果が得られ、今年度も本プロジェクトが滞りなく進めることができたのは、本学、熊本大学、宮崎大学、鹿児島大学、福岡県立大学の各大学で本プロジェクトを支えていただいた皆様のおかげだと思っております。この場をお借りして心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後になりますが、第 4 期中期目標・中期計画が 4 年目に入り、本プロジェクトも 12 年目を迎えました。今後はさらに、大学院教育のあり方に関して、大学院改革が望まれる中、新たな挑戦を本プログラムでも行っていくことが、本連携大学院教育プログラムが地域教育の中核、大学教育の再生として機能していくために必要なことと考えます。そのためにも今後とも連携を結んだ各大学が互いの質を高めるために切磋琢磨していかねばなりません。次年度も本プロジェクトに基づく連携の活動に関してさらなるご理解とご支援を賜りますようによろしく願いいたします。

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発プロジェクト

プロジェクト長 鹿屋体育大学

森 司朗

目次

目 次

1. 事業概要	1
1-1. プロジェクト全体の概要	1
1-2. プロジェクト設置の背景・必要性	1
1-3. プログラムの目的と特色	3
1-3-1. 目的	3
1-3-2. プログラムの特色	3
1-4. 事業実施体制	7
2. 活動状況	8
2-1. 令和 6 年度の主な実績	8
2-2. 令和 6 年度連携大学院共同講義	10
2-2-1. 修士課程連携教育プログラム	11
2-2-2. 博士後期課程連携教育プログラム	15
2-3. 連携大学院教育プログラム交流会	18
2-4. 広報活動	23
2-4-1 連携大学院教育プログラム進学希望者説明会の実施・開催	23
2-4-3. ホームページによる広報活動	25
2-5. 委員会報告	26
2-5-1. 令和 6 年度の事業体制	26
2-5-2. 令和 6 年度の事業概要	28
3. 令和 7 年度事業実施計画	30

1. 事業概要

1. 事業概要

1-1. プロジェクト全体の概要

本事業「体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発プロジェクト」は、設立時は九州地区の教育学部に体育系の大学院（修士課程）を有する地方国立大学が協力体制を構築することで、学際的・複合的な知識や実践力を身につけた人材を育成することを目指し、プロジェクトを開始した。

我が国で唯一の国立 4 年制体育大学である鹿屋体育大学の大学院体育学研究科を中心として、複数の大学（熊本大学、鹿児島大学、宮崎大学、福岡県立大学）の大学院の各研究科が連携・協力して学際的・複合的かつ一貫した指導体制のもとでの体育学文化に特化した指導と体育・スポーツに関する大学院教育を行うことで、九州地区において、高度な専門的知識と豊かな学識を有し、国際的かつ高度な専門的指導者を育成することを目的としている。

1-2. プロジェクト設置の背景・必要性

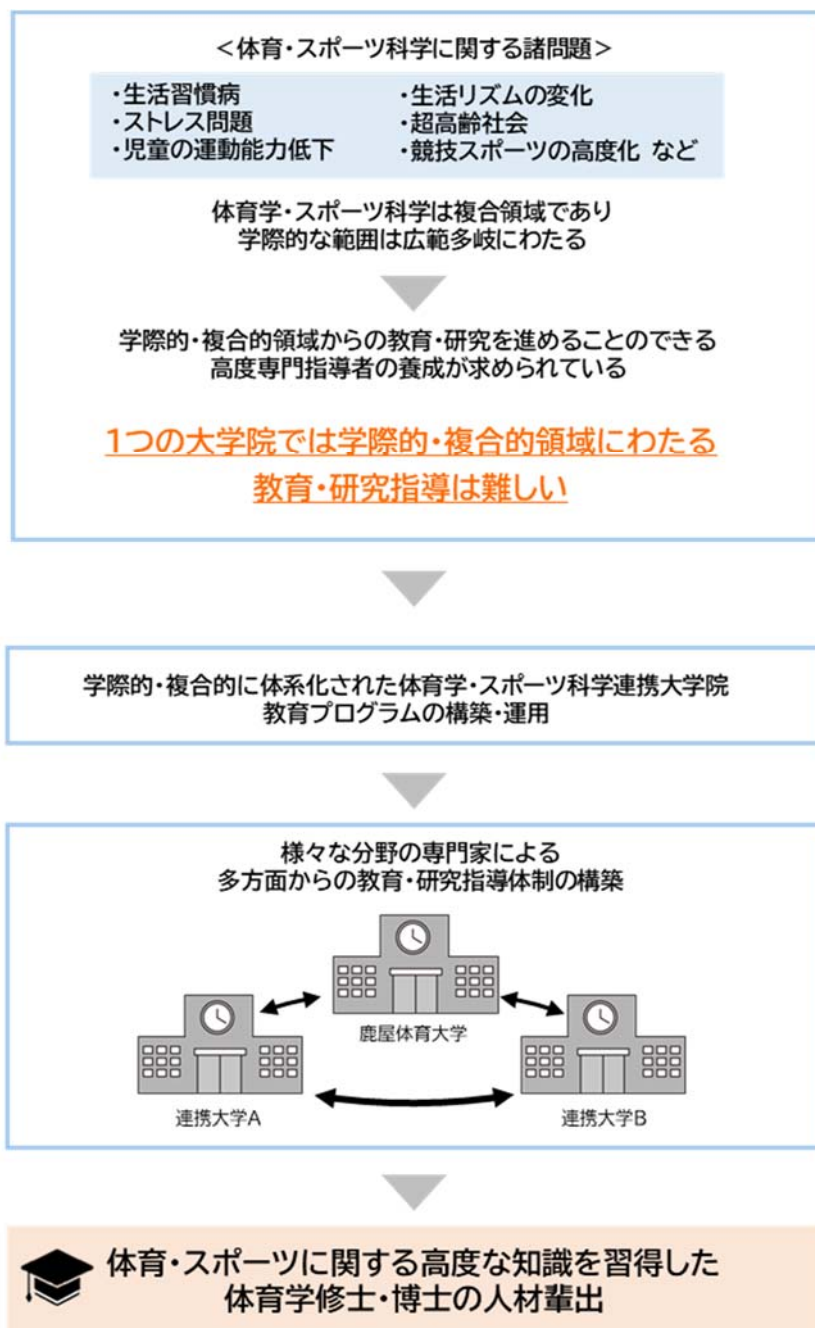
生活環境が日々変化する現代社会では、運動不足による生活習慣病やストレス、生活リズムの変化、超高齢社会における福祉など、人々の健康や生きがいに影響を及ぼす様々な問題が指摘され、国民の健康の維持・増進対策が重要になっている。また、昨年開催されたパリオリンピック・パラリンピック競技大会などの国際的スポーツイベントを通して、競技スポーツに対する国民の興味、関心は高まっており、今後優れた選手の育成や高度な指導力を有する指導者の養成も引き続き求められている。

このような背景から、国民の健康の維持・増進、さらに福祉や競技スポーツの発展等の課題を解決するためには、体育・スポーツ・健康の 3 つの分野を包括した、より学際的かつ複合的な視点からの取り組みが必要である。このような現状において、鹿屋体育大学を含む体育・スポーツ・健康系の研究科を有する大学院では、それぞれの大学教員の授業や研究指導のもとに高い資質を持つ研究者や指導者の育成を目指してきたが、1 つの大学のための指導よりも、複数の大学がお互いに不足する領域を補うよう連携して教育・研究指導を行う（内容の複合性）方が、より効果的に高度な資質をもつ人材を育成できる可能性が高まると考えられる。

一方で、体育・スポーツ・健康にかかわる仕事に就きたいと考える学生の多くは、修士課程や博士後期課程を通じて、同一の指導教員から一貫した教育・研究指導を受けたい（指導・研究の一貫性）

と望んでいる。しかし、在籍する大学では修士課程から教職大学院への移行や博士後期課程を持たないことにより進学を断念するケースも見受けられる。このような背景の中、体育・スポーツ・健康の学際性・複合性を積極的・効果的に活用して、研究・実践を担っていく研究者・実践者の養成を可能にする新たな教育・研究指導システムの構築が必要と考える。

<体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム全体の概要>



1-3. プログラムの目的と特色

1-3-1. 目的

九州地区において、体育・スポーツ・健康に関する学術的・複合的な知識や実践力を身につけた人材を育成するために、学際的・複合的かつ一貫した指導体制のもとで教育・研究指導を可能にする修士課程、博士後期課程が必要となっている。つまり、1つの大学に所属する特定の領域を専門とする教員のみでなく、他の大学に所属する他の様々な領域を専門とする教員が連携しながら教育・研究指導を進めていくことが効果的であると考えられる。そこで、鹿屋体育大学では修士課程、博士後期課程の大学院生に対し、既存の教育プログラムの拡充を狙い、新たな教育・研究指導を提供する連携大学院教育プログラムを提案してきた。

この連携大学院教育プログラムでは、「体育・スポーツ・健康」の諸科学を包括的に捉え、学際的・複合的に研究を推進し、研究成果を社会に還元していくための高度な専門的知識を備えた人材(高度専門職業人)を養成し、修士(体育学)、博士(体育学)の学位取得を目指す。

1-3-2. プログラムの特色

本教育プログラムにおける研究指導では、いずれの課程においても、複数の大学に所属する専門分野の異なった教員が主指導教員と副指導教員になり、博士後期課程、修士課程の院生に対する教育・研究指導を行う。これにより、幅広い領域を包括した指導体制が構築され、充実した高度な研究活動を実現できる。

【博士後期課程の指導体制】(次ページの図参照)

(パターン1) 鹿屋体育大学大学院体育学研究科の教員が主指導教員を引き受ける。

(パターン2) 連携大学所属の指導教員が主指導教員を引き受ける。

【パターン 1】連携大学所属の指導教員が主指導教員を引き受ける

連携大学に所属する主指導教員及び、鹿屋体育大学に所属する副指導教員から教育・研究指導を受けて博士号取得を目指す。



※注1)副指導教員には鹿屋体育大学の教員を必ず1名以上含むこと

【パターン 2】鹿屋体育大学大学院体育学研究科の教員が主指導教員を引き受ける

鹿屋体育大学に所属する主指導教員及び、連携大学に所属する副指導教員から教育・研究指導を受けて博士号取得を目指す。



※注2) 副指導教員に鹿屋体育大学の教員を含んでも構わない

【修士課程の指導体制】

教育体制の特色

複数大学に所属する専門分野の異なった教員が指導教員(1人)と副指導教員(2人以内)となり、学生に対する教育・研究指導を行う

1年次の指導体制



- 鹿屋体育大学修士課程学生として入学し、遠隔講義システムを利用して連携大学において授業を履修(連携大学の教員も一部の科目を担当)
- 論文指導は、1年次は鹿屋体育大学の教員が行う

2年次の指導体制(連携大学院方式)



- 組織的な研究指導委託体制として、主指導教員を連携大学の教員に変更し、対面にて論文指導を実施
鹿屋体育大学教員は副指導教員として遠隔にて論文指導を実施
- 学位論文審査は、連携協定校の主指導教員を加えた審査体制で実施
- 修了判定は鹿屋体育大学の規則に基づき実施し、鹿屋体育大学の学位(修士(体育))が授与される

1-4. 事業実施体制

本プロジェクト推進のため、本学教員から構成される「ワーキンググループ」と「体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発委員会」、ならびに各連携大学に所属する参画可能な教員を加えた「体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム協力者会議」を定期的に開催し、令和元年度実施された外部評価の評価項目についての検討や連携校の拡大、参画教員の充足、連携大学院教育プログラム交流会（以下、連携大学院交流会という）、修士課程の連携等について検討した。

2. 活動状況

2-1.令和 6年度の主な実績

2. 活動状況

2-1. 令和 6 年度の主な実績

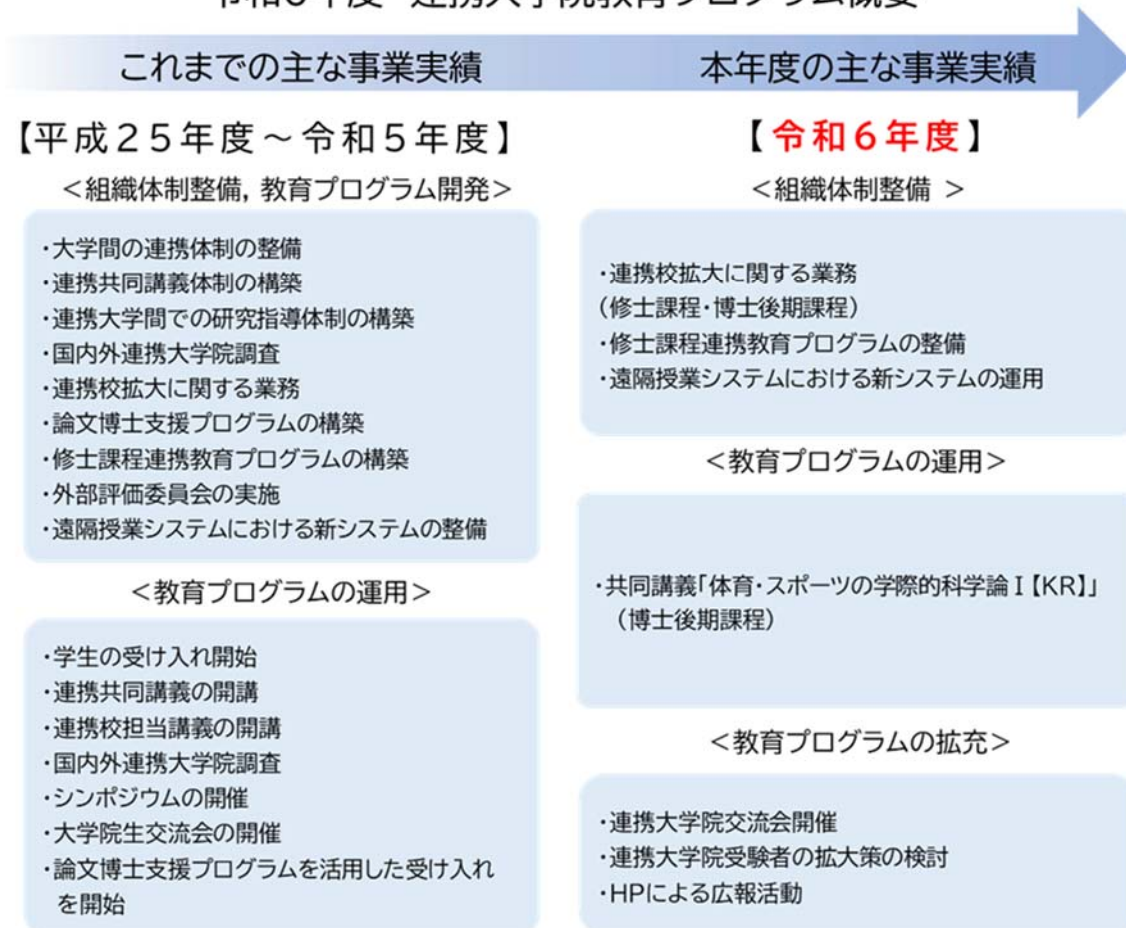
令和 6 年度の本プロジェクトの主な実績は以下の通りである。

<令和 6 年度 活動概要>

日 付	内 容
7 月 19 日	宮崎大学にて院生向けの本教育プログラムの進学説明会を実施
7 月 26 日	熊本大学にて院生向けの本教育プログラムの進学説明会を実施
9 月 18・19 日 9 月 22・25 日	共同講義「体育・スポーツの学際的科学論 I【KR】」を開講
10 月 10 日	院生向けの本教育プログラム個別説明会(オンライン)を実施
11 月 6 日	院生向けの本教育プログラム個別説明会(オンライン)を実施
12 月 21 日	連携大学院交流会を対面・リモートのハイブリッド形式で実施

＜体育学・スポーツ科学連携大学院教育プロジェクトの実績＞

令和6年度 連携大学院教育プログラム概要



◆連携共同講義及び研究指導

連携共同講義について、令和 6 年度は新たな入学者はいなかったため、修士課程では「身体教育特講Ⅰ」「身体教育特講演習Ⅰ」「身体教育特講ⅡA」「身体教育特講演習ⅡA」は受講希望者がおらず実施しなかった。博士後期課程については「体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ」を実施した。

研究指導については、博士後期課程 2 名が本学の指導教員から研究指導を受け、論文指導研究会にて研究発表を実施した。また、論文指導研究会とは別日で、本学の院生や本教育プログラムを活用する院生と本教育プログラムに参画する教員の交流を深めるために連携大学院交流会を実施した。

2-2. 令和 6 年度連携大学院共同講義

本教育プログラムでは、異なる分野を専門とする大学の教員が担当教員となり、博士後期課程・修士課程における体育学・スポーツ科学についての幅広い専門知識の養成を行うためにオムニバス形式の授業を行った。

○ 博士後期課程実施スケジュール

日 時			授業内容	担当教員	授業形式
9月18日	水曜日	1限			
		2限	① 体育学における学際的視点の必要性	森 先生	遠 隔
		3限	⑥ 体育学・コーチ学からみた研究アプローチ	小澤先生	対 面
		4限			
9月19日	木曜日	1限			
		2限	⑦ スポーツ心理学からみた研究アプローチ	中本先生	遠 隔
		3限			
		4限	⑤ 体育・スポーツ経営からみた研究アプローチ	関 先生	遠 隔
9月22日	日曜日	1限			
		2限	④ 運動発達からみた研究アプローチ	森 先生	遠 隔
		3限	③ 神経・筋生理学からみた研究アプローチ	田巻先生	対 面
		4限			
9月25日	水曜日	1限			
		2限			
		3限	② トレーニング科学からみた研究アプローチ	高井先生	遠 隔
		4限	⑧ 体育・スポーツ測定評価学からみた研究アプローチ	池田先生	遠 隔

2-2-1. 修士課程連携教育プログラム

◆令和 6 年度シラバス

<身体教育特講 I>

授業科目名	身体教育特講Ⅰ【KR】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗・井福裕俊・坂本将基・金高宏文・中村夏実・藤田英二・廣津匡隆 中本浩揮・高井洋平・梶ちか子・塩瀬圭佑・石走知子・石澤里枝			補助担当 者名		
単位数	2単位	履修年次	1年次		受け入れ 人数	5名
授業の概要 及び達成目標	身体の特性(身体性)について理解を深めるとともに、身体を教育するための様々な手段について、心・技・体の観点から学び、生涯にわたって身体を育てていくための基礎的な能力を身につける。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績(%) ■ 授業への取組み状況(40%) ■ レポート等の提出状況(60%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参考書	テキストは使用しない。資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	連携教育プログラム履修生は、同時開講予定の「身体教育特講演習Ⅰ【KR】」を履修すること。			備考(教員 メッセージ 含む)	本講義は、連携教育プログラム履修生の必修科目。原則として夏期休業中の約1週間程度とし、開講時期については、連携プログラム履修生の都合を優先する。なお、講義の順序が変更になる場合もある。	
オフィスアワー	集中講義の期間中に各教員が対応する。					
授 業 計 画						
回	担当教員名	授 業 内 容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	身体の特性(身体性)について			身体の特性(身体性)についての復習(30分以上)	
2	梶 ちか子	身体教育の手段について			身体教育の手段についての復習(30分以上)	
3	森 司朗	動機づけ等について			動機づけ等についての復習(30分以上)	
4	中本 浩揮	心のトレーニングについて			心のトレーニングについての復習(30分以上)	
5	坂本 将基	身体意識の変容と運動技能について			身体意識の変容と運動技能についての復習(30分以上)	
6	金高 宏文	運動指導とコツ・カンについて			運動指導とコツ・カンについての復習(30分以上)	
7	井福 裕俊	体力について			体力についての復習(30分以上)	
8	高井 洋平	アスリートの体力トレーニングについて			アスリートの体力トレーニングについての復習(30分以上)	
9	藤田 英二	健康づくりのための運動処方について			健康づくりのための運動処方についての復習(30分以上)	
10	塩瀬 圭佑	健康と生活習慣について			健康と生活習慣についての復習(30分以上)	
11	石澤 里枝	栄養について			栄養についての復習(30分以上)	
12	中村 夏実	自然環境の活用について(海洋スポーツ)			自然環境の活用について(海洋スポーツ)の復習(30分以上)	
13	石走 知子	休養について			休養についての復習(30分以上)	
14	廣津 匡隆	コンディショニングと障害予防について			コンディショニングと障害予防についての復習(30分以上)	
15	森 司朗	まとめ			課題レポートの作成(3時間)	

＜身体教育特講演習Ⅰ＞

授業科目名	身体教育特講演習Ⅰ【KR】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗・井福裕俊・小澤雄二・金高宏文・中村夏実・藤田英二・萬久博敏 廣津匡隆・中本浩輝・高井洋平・永原隆・塩瀬圭佑・石走知子・石澤里枝			補助担当 者名		
単位数	2単位	履修年次	1年次		受け入れ 人数	5名
授業の概要 及び達成目標	「身体教育特講Ⅰ【KR】」で学んだ身体を教育するための様々な手段について、心・技・体に関する文献購読や調査 測定・討論等を通して理解を深め、生涯にわたって身体を育てていくための実践的な能力を身につける。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（ %） ■ 授業への取組み状況（40%） ■ レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参考書	テキストは使用しない。資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	同時開講予定の「身体教育特講Ⅰ【KR】」を履 修すること。			備考（教員 メッセージ 含む）	本演習は、連携教育プログラム履修生の必修科目。原則として 夏期休業中の約1週間程度とし、開講時期については、連携プ ログラム履修生の都合を優先する。なお、演習の順序が変更に なる場合もある。	
オフィスアワー	集中講義の期間中に各教員が対応する。					
授 業 計 画						
回	担当教員名	授 業 内 容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	動機づけ等について			動機づけ等についての復習（30分以上）	
2	中本 浩輝	心のトレーニングについて			心のトレーニングについての復習（30分以上）	
3	金高宏文 永原 隆	運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについて①			運動指導とバイオメカニクスと コツ・カンについての復習（30分以上）	
4	金高宏文 永原 隆	運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについて②			運動指導とバイオメカニクスと コツ・カンについての復習（30分以上）	
5	小澤 雄二	運動指導とコツ・カンについて（柔道）			運動指導とコツ・カン（柔道）についての 復習（30分以上）	
6	井福 裕俊	体力について			体力についての復習（30分以上）	
7	高井 洋平	球技スポーツにおける攻防の評価について			球技スポーツにおける攻防の評価についての 復習（30分以上）	
8	塩瀬 圭佑	健康と生活習慣について（調査と評価）			健康と生活習慣の調査と評価についての 復習（30分以上）	
9	藤田 英二	健康づくりのための運動処方について			健康づくりのための運動処方についての 復習（30分以上）	
10	萬久 博敏	運動指導とコツ・カンについて（水泳）			運動指導とコツ・カン（水泳）についての 復習（30分以上）	
11	石澤 里枝	栄養について			栄養についての復習（30分以上）	
12	石走 知子	休養について			休養の調査と評価についての 復習（30分以上）	
13	廣津 匡隆	コンディショニングと障害予防について			コンディショニングと障害予防についての 復習（30分以上）	
14	中村 夏実	自然環境下での運動について			自然環境下での運動についての 復習（30分以上）	
15	森 司朗	まとめ			課題レポートによるまとめ（3時間）	

＜身体教育特講ⅡB＞

授業科目名	身体教育特講ⅡB【KR】			授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑				補助担当者名		
単位数	2単位	履修年次	—		受け入れ人数	—	
授業の概要 及び達成目標	本特講では、健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の重要性を理解することを目的とする。特に、運動や食事が代謝機能や身体組成へ及ぼす影響や、健康づくりや競技パフォーマンス向上のための運動方法について学習する。						
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績(%) □ 出席状況(%) ■ 授業への取り組み状況(50%) ■ レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。						
成績評価の基準	健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の重要性について説明できる。						
テキスト、教材 参考書	必要に応じて資料を配布・紹介する。						
履修条件・ 関連科目					備考(教員メッセージ含む)		
オフィスアワー	適宜指定する。						
授 業 計 画							
回	担当教員名	授 業 内 容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	オリエンテーション				講義内容の復習、予習(1時間)	
2	//	エネルギー代謝				講義内容の復習、予習(1時間)	
3	//	エネルギー出納Ⅰ(エネルギー摂取)				講義内容の復習、予習(1時間)	
4	//	エネルギー出納Ⅱ(エネルギー消費)				講義内容の復習、予習(1時間)	
5	//	エネルギー代謝評価Ⅰ(運動時のエネルギー)				講義内容の復習、予習(1時間)	
6	//	エネルギー代謝評価Ⅱ(日常生活のエネルギー)				講義内容の復習、予習(1時間)	
7	//	身体組成				講義内容の復習、予習(1時間)	
8	//	身体組成評価Ⅰ(身体密度法)				講義内容の復習、予習(1時間)	
9	//	身体組成評価Ⅱ(キャリパー法・BIA法)				講義内容の復習、予習(1時間)	
10	//	健康のための運動Ⅰ(体力評価と運動処方)				講義内容の復習、予習(1時間)	
11	//	健康のための運動Ⅱ(ニコニコベース)				講義内容の復習、予習(1時間)	
12	//	健康のための食事				講義内容の復習、予習(1時間)	
13	//	競技パフォーマンスとトレーニング				講義内容の復習、予習(1時間)	
14	//	競技パフォーマンスと食事				講義内容の復習、予習(1時間)	
15	//	まとめ				レポート課題(3時間)	

＜身体教育特講演習ⅡB＞

授業科目名	身体教育特講演習ⅡB【KR】			授業形態	講義	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑				補助担当者名		
単位数	2単位	履修年次	—		受け入れ人数	—	
授業の概要 及び達成目標	本特講では、健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の効果についての著書や研究論文を抄読する。また、運動や食事による代謝機能や身体組成への影響を評価するための基本的な技能について学ぶ。これらから、健康づくりや競技パフォーマンス向上に応用できる知識と技能を身につける。						
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績(%) □ 出席状況(%) ■ 授業への取組み状況(50%) ■ レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。						
成績評価の基準	食事や運動の効果を検証するためのエネルギー代謝や身体組成評価法を実践できる 健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための食事や運動の効果に関する著書や研究論文を抄読し、内容を理解できている						
テキスト、教材 参考書	必要に応じて資料を配布・紹介する。						
履修条件・ 関連科目					備考(教員メッセージ含む)		
オフィスアワー	適宜指定する。						
授 業 計 画							
回	担当教員名	授 業 内 容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	オリエンテーション				文献の予習・復習(1時間)	
2	〃	エネルギー代謝評価の実践Ⅰ				文献の予習・復習(1時間)	
3	〃	エネルギー代謝評価の実践Ⅱ				文献の予習・復習(1時間)	
4	〃	エネルギー代謝評価の実践Ⅲ				文献の予習・復習(1時間)	
5	〃	身体組成評価の実践Ⅰ				文献の予習・復習(1時間)	
6	〃	身体組成評価の実践Ⅱ				文献の予習・復習(1時間)	
7	〃	運動処方の実践Ⅰ				文献の予習・復習(1時間)	
8	〃	運動処方の実践Ⅱ				文献の予習・復習(1時間)	
9	〃	エネルギー代謝に関する著書、論文の抄読Ⅰ				文献の予習・復習(1時間)	
10	〃	エネルギー代謝に関する著書、論文の抄読Ⅱ				文献の予習・復習(1時間)	
11	〃	身体組成に関する著書、論文の抄読Ⅰ				文献の予習・復習(1時間)	
12	〃	身体組成に関する著書、論文の抄読Ⅱ				文献の予習・復習(1時間)	
13	〃	健康や競技パフォーマンス向上のための運動・食事に関する著書、論文の抄読Ⅰ				文献の予習・復習(1時間)	
14	〃	健康や競技パフォーマンス向上のための運動・食事に関する著書、論文の抄読Ⅱ				文献の予習・復習(1時間)	
15	〃	まとめ				レポート課題(3時間)	

2-2-2. 博士後期課程連携教育プログラム

◆令和6年度シラバス

＜体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ＞

授業科目名	体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (共通)
担当教員名	森 司朗・池田孝博・小澤 雄二・田巻 弘之・関 朋昭・中本 浩揮・高井洋平			補助担当者名		
単位数	1単位	履修年次	—		受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	複雑な現代社会において、心身の健康の維持・向上の問題を解決するためには、より学際的かつ複合的な視点から体育学・スポーツ科学をとらえる必要がある。 本講義では、この視点から、複合領域の「体育学」「スポーツ科学」に関して身体教育学系、スポーツ科学系、応用健康科学系の3つの研究分野から各専門分野の教員がオムニバス形式で解説を行う。これにより、複合領域としての体育学・スポーツ科学の学問特性に関する基礎的知識を習得し、高度な専門的指導者としての教養を身につけることを目的とする。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績(%) ■ 授業への取組み状況(40%) ■ レポート等の提出状況(60%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参考書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員 メッセージ含む)		
オフィスアワー	担当教員ごとに要予約(相談)					
授 業 計 画						
回	担当教員名	授 業 内 容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	体育学における学際的視点の必要性			体育学の研究領域・身体適応論(1時間)	
2	高井 洋平	トレーニング科学からみた研究アプローチ			トレーニング科学、運動生理学の概要(1時間)	
3	田巻 弘之	神経・筋生理学からみた研究アプローチ			神経と筋生理の概要(1時間)	
4	森 司朗	運動発達からみた研究アプローチ			発育発達論の概要(1時間)	
5	関 朋昭	体育・スポーツ経営からみた研究アプローチ			体育管理・スポーツビジネスの概要(1時間)	
6	小澤 雄二	運動学・コーチ学からみた研究アプローチ			バイオメカニクスの概要(1時間)	
7	中本 浩揮	スポーツ心理学からみた研究アプローチ			体育・スポーツの心理学的側面(1時間)	
8	池田 孝博	体育・スポーツ測定評価学からみた研究アプローチ			体育・スポーツ測定評価学の概要(1時間)	

＜体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ＞

授業科目名	体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (共通)
担当教員名	森 司朗・井福 裕俊・坂本 将基・山田 理恵・堀内 雅弘・梶 ちか子 塩瀬 圭佑			補助担当 者名		
単位数	1単位	履修年次	—		受け入れ 人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	複雑な現代社会において、心身の健康の維持・向上の問題を解決するためには、より学際的かつ複合的な視点から体育学・スポーツ科学をとらえる必要がある。 本講義では、この視点から、複合領域の「体育学」「スポーツ科学」に関して身体教育学系、スポーツ科学系、応用健康科学系の3つの研究分野から各専門分野の教員がオムニバス形式で解説を行う。これにより、複合領域としての体育学・スポーツ科学の学問特性に関する基礎的知識を習得し、高度な専門的指導者としての教養を身につけることを目的とする。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績(%) ■ 授業への取組み状況(40%) ■ レポート等の提出状況(60%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参考書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィスアワー	担当教員ごとに要予約(相談)					
授 業 計 画						
回	担当教員名	授 業 内 容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	体育学における他領域への貢献を考える①			体育学の研究領域について(1時間)	
2	塩瀬 圭佑	健康と運動生理生化学からみた研究アプローチ			身体運動と健康について(1時間)	
3	梶 ちか子	体育科教育からみた研究アプローチ			身体性と健康づくり(1時間)	
4	井福 裕俊	循環システム学からみた研究アプローチ			身体運動と心臓循環機能(1時間)	
5	山田 理恵	体育・スポーツ史からみた研究アプローチ			体育・スポーツ科学の進歩と展望(1時間)	
6	坂本 将基	運動制御学からみた研究アプローチ			身体運動と脳・神経および健康(1時間)	
7	堀内 雅弘	運動生理学からみた研究アプローチ			授業内容の予習と復習(1時間)	
8	森 司朗	体育学における他領域への貢献を考える②			体育学の研究領域の学際性(1時間)	

◆令和6年度授業内容

「体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】」

回	担当 教員	授 業	講 義 内 容
①	森	体育学における学際的 視点の必要性	体育学は多くの研究領域の基に成り立っている。複合している領域との関係性をよく理解することは研究を深め、独創的な研究を生むことに結びつく。ここでは、体育学・スポーツ科学や学際的研究の特徴について理解するとともに、学際的研究（含、「超適応」）の事例などをもとにして体育学の実験系における他領域との学際的な視点の必要性について考えた。
②	高井	トレーニング科学からみた 研究アプローチ	トレーニング科学は、人が健康であるための効果的な運動処方や競技者が身体パフォーマンスを向上させるためのトレーニングプログラムを計画するために貢献する。トレーニングには、効果を得るための原理原則があるものの、運動実施者の健康度・体力水準、年齢、動機づけなど大きな個人差がある。つまり、普遍性と個別性を考慮しながら科学的なトレーニングについて考える必要がある。そこで本講義では、トレーニングの普遍性と個別性の事例について、研究事例を挙げて具体的に説明をすることで、トレーニング科学について考究した。
③	田巻	神経・筋生理学からみた 研究アプローチ	オンラインで授業を実施した。Webにて講義前アンケートを行い興味関心の所在を調査した。スポーツと遺伝、速さや巧緻性に関する神経-筋系トレーニング、骨格筋の微細構造と筋線維タイプ、筋力・筋パワー、筋疲労と筋損傷と筋肥大等に関する授業資料を配布し、興味に応じて疑問点や日常生活レベルでの現象と関連付けた問い等からディスカッションした。
④	森	運動発達からみた研究ア プローチ	人間の運動発達に関して、幼少期の子どもの育ちを中心に、発達の研究の意義及び研究方法について概観するとともに、最近の子どもの運動発達研究に関する研究を取り上げ、これからの運動発達研究の在り方に関して考えた。
⑤	関	体育・スポーツ経営から みた研究アプローチ	受講生の研究概要を紹介してもらい、経営学の視点から助言を行いました。具体的な内容としてスポーツの原理について、私の知見と基に、受講生の研究と照らし合わせディスカッションしました。スポーツ研究における各論のあり方について深く議論しました。そこでは理論と実践の役割についても触れることになり、スポーツ研究の在り方についても意見交換しました。
⑥	小澤	スポーツ心理学からみた 研究アプローチ	科学的根拠に基づいたトレーニングプログラムの作成・指導こそが、教師やコーチの役割である。本講義では、そのための力学、生理学、心理学、体力学、トレーニング学、栄養学、スポーツ医学などの個別諸科学における成果の活用を考えるための講義を行った。
⑦	中本	スポーツ心理学からみた 研究アプローチ	体育・スポーツの学術研究において、領域横断的に不変なキーワードは「身体運動」である。本講義では、身体運動に関わる心理プロセスの解明において利用される心理学研究法について、仮説検証と仮説生成にかかわる質的、量的な研究アプローチを紹介し、身体運動の本質に迫るための議論を行った。
⑧	池田	体育・スポーツ測定評価 学からみた研究アプ ローチ	この講義では、1)体育・スポーツにおける測定評価学の考え方を理解する 2)データを収集する際に測定質を判断するための根本的基準（妥当性、信頼性）の概念について理解する、の2点を学修目標として、測定評価学史を概観した上で、体育・スポーツ分野における測定・評価の具体的方法等に関する講義を行った。さらに、講義内容を踏まえて授業に参加している学生自身の研究における、測定評価に関わる問題点や課題について確認しつつ、相互討議を行った。

2-3. 連携大学院教育プログラム交流会

令和6年12月21日に、連携大学院教育プログラムを活用する大学院生および本学修士課程・博士後期課程の大学院生を対象として研究に関する意見交換等を行い、今後の研究や就職活動の促進につなげることを目的とした「連携大学院教育プログラム交流会」を開催した。

今年度は熊本大学の末永祐介准教授をお招きし「大学と地元プロスポーツ等との共同研究の試み」と題してご講演をいただいた。また、現在他県に在住し、連携大学院の学生として学んでいる3名の方に自身が行っている研究内容を発表いただいた。その後、発表内容について参加者だけでなく先生方も交えて質問や意見、感想を述べ、研究活動を活発的に取り組む姿勢についてディスカッションを行った。

◆連携大学院交流会ポスター

**連携大学院
& 大学院
交流会**

**2024
12.21 Sat
10:00~12:00**

■ 会場：事務局2階大会議室または Webex
※オンライン参加は下記のQRコードからお申込ください。

■ 講演
末永 祐介 先生（熊本大学大学院教育学研究科准教授）
～（仮）大学と地元プロスポーツチーム等との共同研究の試み～

■ 発表
山下 敦也さん（修士課程2年）
川口 貴晴さん（修士課程2年）
伊藤 友記さん（博士後期課程2年）

会場に直接お越しに
なる方は事前申込は不要です

ぜひお気軽にご参加ください

■ お問い合わせ
鹿屋体育大学 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発プロジェクト事務局
<Tel.0994-46-5128 Mail:renkei-graduate@nifs-k.ac.jp 研究棟7階プロジェクト研究室6>

◆連携大学院教育プログラム交流会スケジュール

令和6年12月21日(土) ※司会：幾留先生

10:00 (5分)	開会挨拶
10:05 (30分)	講演：末永 祐介先生(熊本大学大学院教育学研究科・准教授)
10:35 (5分)	休憩
10:40 (25分)	セッション① 発表者：山下 敦也さん(本学修士課程2年)
11:05 (25分)	セッション② 発表者：川口 貴晴さん(本学修士課程2年)
11:30 (25分)	セッション③ 発表者：伊藤 友記さん(本学博士後期課程2年)
11:55 (5分)	閉会挨拶

◆講師の経歴



末永 祐介 氏

熊本大学大学院教育学研究科 准教授
熊本ヴォルターズ,アナリティクスチーム・ラボディレクター

2001年 聖徳大学附属幼稚園
2003年 公立小学校教諭
2010年 東北文教大学,人間科学部子ども教育学科,助教
2011年 日本体育大学,助教
2013年 文部科学省,スポーツ・青少年局体育参事官付,事業係長
2015年 東京女子体育大学,体育学部体育学科・教職,講師
2020年 東京女子体育大学,体育学部体育学科・教職,准教授
2022年 熊本大学大学院教育学研究科(教育学部併任),准教授 現在に至る

◆メインセッション



発表の様子

- レジスタンストレーニング期間中のエネルギー付加量の違いが
DXA 法による身体組成の変化に及ぼす影響
山下 敦也 さん（鹿屋体育大学大学院 修士課程 2 年）



発表の様子

- 女性起立性低血圧者における立位時の重心動揺と
歩行時の下肢筋活動
川口 貴晴 さん（鹿屋体育大学大学院 修士課程 2 年）



発表の様子(オンライン)

- 競技者の心理的支援における風景構成法の活用に関する研究
—大学生野球部の投手を対象として—
伊藤 友記 さん（鹿屋体育大学大学院 博士後期課程 2 年）

<交流会の様子>



令和6年度 連携大学院教育プログラム交流会アンケート

令和6年度連携大学院教育プログラム交流会後、今後の交流会運営の為、アンケートを実施しました。

【日時・場所】

令和6年12月21日(土) 10:00~12:00

事務局2階 大会議室またはオンライン(Webex)

【アンケート】

参加学生全員に交流会実施後、formsにて回答

【学生参加人数】

	交流会参加者	アンケート回答者
会 場	2	2
オンライン	1	1
計	3	3

回答率 100 %

【アンケート結果】

1. 交流会に参加してよかったと思いますか？

よかった	3
改善すべき部分がみられた	0

2. 今後改善したほうがよいと思われる項目があればお答えください

日程・時間帯	1	・12月下旬だと修士課程2年、もしくは博士課程3年の場合、論文提出期限が迫っているので参加して下さる可能性は低いかもしれません
研究発表・ディスカッション	0	
参加募集の方法	0	
その他	0	
特になし	2	

3. 今回の交流会のご感想をお答えください

- ・リモート参加を可能にしてくださっているので、非常にありがたいです。他の博士課程の院生さんの発表もお聞きしたかったです。
- ・研究途中で発表する機会をいただけて良かったです。先生方からいただいた助言を参考に今後の活動に活かしていきたいです。
- ・多くの先生と研究に関するディスカッションがでただけでなく、日々の研究活動について話すことができ、今後の研究活動の励みとなった。

4. 今後交流会で聴いてみたい講演テーマや講演してほしい人、業種などがあればお書きください

回答0

5. その他、ご意見・ご感想等がありましたらご自由にお書きください

回答0

2-4. 広報活動

2-4-1 連携大学院教育プログラム進学希望者説明会の実施・開催

本年度は宮崎大学、熊本大学の博士後期課程および修士課程への進学を検討している院生、学部生を対象に本教育プログラムの説明会を行った。また、本学のホームページより説明会希望の申込があったため、2名を対象とした個別説明会をオンラインで行った。なお、説明会参加者の募集方法について、今後の課題として引き続き考えていく必要がある。

説明会では、連携大学院教育プログラムのシステム紹介、鹿屋体育大学の紹介、入試までの流れと費用等の説明を行ったうえで、参加者からの質疑応答に対し、教員または職員が対応する（オンライン）という形で行われた。

<令和6年度>

①宮崎大学

実施日：2024年7月19日 10:00～11:30

場 所：宮崎大学（対面で実施）

参加者：3名（学部生2名・修士課程1名）

②熊本大学

実施日：2024年7月26日 15:00～16:00

場 所：熊本大学（対面で実施）

参加者：2名（学部生2名）

③個別説明会（オンラインで実施）

実施日：2024年10月10日 11:00～12:00

2024年11月 6日 13:00～14:00

2-4-2 連携大学院教育プログラムポスターの作成

本教育プログラムの情報を周知するために熊本大学、鹿児島大学、宮崎大学、福岡県立大学の大学院生向けにポスターを作成した。(毎年度更新)

<熊本大学>

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 (修士課程・博士後期課程)
体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム
院 生 募 集

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムを活用すると、
熊本大学の指導教員のほか、スポーツ・健康科学の専門家、
※ 鹿屋体育大学と連携する4つの大学が共同で実施しています。

WEB説明会開催
詳細はポスター裏面に記載します。
※ 申し込みはポスター裏面に記載のQRコードからお願いします。
※ 申し込みはポスター裏面に記載のQRコードからお願いします。

■ 教育・研究指導体制 ■ 連携シニアの活用 ■ 利用可能な施設
SPORTEC スポーツ・パフォーマンス支援センター

本プログラムは、鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻を中心として、
連携の4大学の連携、協力を教育・研究指導を行うプログラムです。

【令和7年度学生募集】
【修士】出願期間: 令和6年9月18日(水)～9月24日(火)
選抜日程: 令和6年9月22日(火)
【博士後期】出願期間: 令和6年9月18日(水)～9月24日(火)
選抜日程: 令和6年10月23日(水)

※ 本学はJST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に令和6年度から採択されました。

お問い合わせ先: 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム推進プロジェクト事務局 Tel: 096-461-5111 Mail: kumamoto@kumamoto-u.ac.jp
鹿屋体育大学 企画課 教育推進課 Tel: 096-461-5111 Mail: kumamoto@kumamoto-u.ac.jp
〒860-0811 鹿屋市東町1-1-1 鹿屋市役所1階 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム推進プロジェクト事務局

<鹿児島大学>

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 (修士課程・博士後期課程)
体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム
院 生 募 集

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムを活用すると、
鹿児島大学の指導教員のほか、スポーツ・健康科学の専門家、
※ 鹿屋体育大学と連携する4つの大学が共同で実施しています。

WEB説明会開催
詳細はポスター裏面に記載します。
※ 申し込みはポスター裏面に記載のQRコードからお願いします。
※ 申し込みはポスター裏面に記載のQRコードからお願いします。

■ 教育・研究指導体制 ■ 連携シニアの活用 ■ 利用可能な施設
SPORTEC スポーツ・パフォーマンス支援センター

本プログラムは、鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻を中心として、
連携の4大学の連携、協力を教育・研究指導を行うプログラムです。

【令和7年度学生募集】
【修士】出願期間: 令和6年9月18日(水)～9月24日(火)
選抜日程: 令和6年9月22日(火)
【博士後期】出願期間: 令和6年9月18日(水)～9月24日(火)
選抜日程: 令和6年10月23日(水)

※ 本学はJST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に令和6年度から採択されました。

お問い合わせ先: 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム推進プロジェクト事務局 Tel: 096-461-5111 Mail: kumamoto@kumamoto-u.ac.jp
鹿児島大学 企画課 教育推進課 Tel: 096-461-5111 Mail: kumamoto@kumamoto-u.ac.jp
〒890-0055 鹿児島市中央2-1-1 鹿児島大学本館1階 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム推進プロジェクト事務局

<宮崎大学>

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 (修士課程・博士後期課程)
体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム
院 生 募 集

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムを活用すると、
宮崎大学の指導教員のほか、スポーツ・健康科学の専門家、
※ 鹿屋体育大学と連携する4つの大学が共同で実施しています。

WEB説明会開催
詳細はポスター裏面に記載します。
※ 申し込みはポスター裏面に記載のQRコードからお願いします。
※ 申し込みはポスター裏面に記載のQRコードからお願いします。

■ 教育・研究指導体制 ■ 連携シニアの活用 ■ 利用可能な施設
SPORTEC スポーツ・パフォーマンス支援センター

本プログラムは、鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻を中心として、
連携の4大学の連携、協力を教育・研究指導を行うプログラムです。

【令和7年度学生募集】
【修士】出願期間: 令和6年9月18日(水)～9月24日(火)
選抜日程: 令和6年9月22日(火)
【博士後期】出願期間: 令和6年9月18日(水)～9月24日(火)
選抜日程: 令和6年10月23日(水)

※ 本学はJST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に令和6年度から採択されました。

お問い合わせ先: 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム推進プロジェクト事務局 Tel: 098-441-5111 Mail: miyazaki@miyazaki-u.ac.jp
宮崎大学 企画課 教育推進課 Tel: 098-441-5111 Mail: miyazaki@miyazaki-u.ac.jp
〒880-0801 宮崎市中央2-1-1 宮崎大学本館1階 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム推進プロジェクト事務局

<福岡県立大学>

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 (修士課程・博士後期課程)
体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム
院 生 募 集

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムを活用すると、
福岡県立大学の指導教員のほか、スポーツ・健康科学の専門家、
※ 鹿屋体育大学と連携する4つの大学が共同で実施しています。

WEB説明会開催
詳細はポスター裏面に記載します。
※ 申し込みはポスター裏面に記載のQRコードからお願いします。
※ 申し込みはポスター裏面に記載のQRコードからお願いします。

■ 教育・研究指導体制 ■ 連携シニアの活用 ■ 利用可能な施設
SPORTEC スポーツ・パフォーマンス支援センター

本プログラムは、鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻を中心として、
連携の4大学の連携、協力を教育・研究指導を行うプログラムです。

【令和7年度学生募集】
【修士】出願期間: 令和6年9月18日(水)～9月24日(火)
選抜日程: 令和6年9月22日(火)
【博士後期】出願期間: 令和6年9月18日(水)～9月24日(火)
選抜日程: 令和6年10月23日(水)

※ 本学はJST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に令和6年度から採択されました。

お問い合わせ先: 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム推進プロジェクト事務局 Tel: 092-441-5111 Mail: fukuoka@fukuoka-u.ac.jp
福岡県立大学 企画課 教育推進課 Tel: 092-441-5111 Mail: fukuoka@fukuoka-u.ac.jp
〒815-0292 福岡県糟粕川町1-2-1 福岡県立大学本館1階 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム推進プロジェクト事務局

2-4-3. ホームページによる広報活動

本プログラムの情報をより周知するために、本学のホームページに掲載されている内容を見直し、新たにキャリアパスや本プログラム修了生のインタビューを追加し、更新した。

NIFS KANOYA
日本で唯一の国立体育大学

HOME / 学部・研究科 / 連携大学院教育プログラム（修士課程・博士後期課程）

連携大学院教育プログラム（修士課程・博士後期課程）

連携大学院とは | キャリアパス | 修了生の声 | 教育プログラムの概要 | 次世代元・主・導人育成促進プロジェクト

連携大学院とは

地元の大学に残って活動できます！

鹿児島体育大学の大学院主として在籍しながら、連携協定校に研究活動の基盤を築くことができます。

また、連携システム（Webex）でのオンライン指導を受けることができます。地元にいながら、鹿児島体育大学の教育・研究活動を行うことが可能です。

博士（体育学）を目指しましょう！

複合領域である体育学・スポーツ科学についての高度で専門的な知識を学びながら、鹿児島体育大学の博士（体育学）の学位取得を目指します。

未踏の学際領域や複合領域を開拓！

「競技スポーツ」又は「生涯スポーツ」の分野において、これまでにない学際領域や複合領域を開拓し、研究成果を実践に応用できる高度な専門性と実践的な指導力を有する指導者を養成することを目的としています。

従来の、専門化した研究領域における分析的な研究を行う研究者の養成とは一線を画しています。

様々な専門領域の教員から学べます！

複数の体育・スポーツ・健康系の研究科を有する大学院の各研究科が連携・協力して教育・研究指導を行います。鹿児島体育大学のみならず、他の大学に所属する様々な領域を専門とする教員から学ぶことができます。

キャリアパス

保健体育科教員 教育学部等との連携を通じて、小中高生の体育発達に対応できる高い専門性を持った教員となることができます。	スポーツコーディネーター スポーツに関する幅広い知識を得ることによって、スポーツを通じて様々な人・組織と共に新たな企画を立ち上げる力を養うことができます。	クラブチーム等の指導者 スポーツコーチングに学際的な研究成果を活用することによって、指導理論と実践力を兼ね備えた指導者となることができます。	スポーツマネジメント 最新のマネジメント理論と多岐に渡る実践を学ぶことにより、スポーツを新たな視点で捉え直す力を養うことができます。
スポーツを通じた健康づくりの専門家 子どもの体力低下、高齢者の健康維持などの社会における様々な課題に対し、スポーツを通じて解決する力を養うことができます。	進学（修士の場合） 複数の大学に在籍する教員から研究指導を受け、幅広い観点から諸問題の解決を目指すことのできる博士号（体育学）取得者を指導することができます。	研究員・大学教員 様々な分野を学ぶことによって、体育・スポーツ科学全般に対応できる研究員や大学教員として活動できます。	

修了生の声

中山 貴文さん 連携大学院教育プログラム修士後期課程 修了生 九州中央リハビリテーション学院 理学療法学科 副学長 詳細を確認する	中村 智恵さん 連携大学院教育プログラム修士後期課程 修了生 鹿児島大学 教育学部人間科学科心理学専攻 特任准教授 詳細を確認する
---	---

2-5. 委員会報告

2-5-1. 令和6年度の事業体制

令和6年度体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムワーキンググループ委員名簿、同開発委員会名簿、同学外委員名簿は以下の通りである。

今年度は関委員がワーキンググループメンバーに加わり、新たに福岡県立大学との連携により池田委員が加入された。

＜令和6年度体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムワーキンググループ委員名簿＞

	氏 名	所 属 等
委員長	森 司 朗	スポーツ人文・応用社会科学系 教授
委員	小 澤 雄 二	スポーツ武道・実践科学系 教授
委員	藤 田 英 二	スポーツ生命科学系 教授
委員	中 本 浩 揮	スポーツ人文・応用社会科学系 教授
委員	幾 留 沙 智	スポーツ人文・応用社会科学系 講師
委員	関 朋 昭	スポーツ人文・応用社会科学系 教授
陪席	元 明 勇 二	教務課課長
陪席	中 野 友 晴	教務課教育企画係長
陪席	中 野 さ つ き	事務補佐員

＜令和6年度体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発委員会名簿＞

	氏 名	所 属 等
委員長	森 司 朗	スポーツ人文・応用社会科学系 教授
委員	前 田 明	理事・副学長
委員	金 高 宏 文	スポーツ武道・実践科学系 教授
委員	小 澤 雄 二	スポーツ武道・実践科学系 教授
委員	山 田 理 恵	スポーツ人文・応用社会科学系 教授
委員	和 田 智 仁	スポーツ人文・応用社会科学系 教授
委員	藤 田 英 二	スポーツ人文・応用社会科学系 教授
委員	関 朋 昭	スポーツ人文・応用社会科学系 教授
委員	中 本 浩 揮	スポーツ人文・応用社会科学系 教授
委員	幾 留 沙 智	スポーツ人文・応用社会科学系 講師
陪席	元 明 勇 二	教務課課長
陪席	中 野 友 晴	教務課教育企画係長
陪席	中 野 さ つ き	事務補佐員

＜令和6年度体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム学外委員名簿＞

	氏 名	所 属 等
委員	井 福 裕 俊	熊本大学 大学院教育学研究科 保健体育科教育 教授
委員	坂 本 将 基	熊本大学 大学院教育学研究科 保健体育科教育 准教授
委員	塩 瀬 圭 佑	宮崎大学 教育学部保健体育 学校教育課程 准教授
委員	石 走 知 子	鹿児島大学学術研究院総合科学域総合教育学系 総合教育機構 共通教育センター 体育・健康教育部門 准教授
委員	池 田 孝 博	福岡県立大学 大学院人間社会学研究科 子ども教育専攻 教授

2-5-2. 令和 6 年度の事業概要

令和 6 年度は、本学教員によるワーキングと開発委員会、並びに本学教員と連携大学の教員による協力者会議を定期的に開催し、連携共同講義、連携校の拡大、連携大学院交流会等について検討を行った。

- (1) プログラム連携促進業務：連携校拡大のために本教育プログラムの説明を行い、協定締結に向けた取り組みを継続している。
- (2) 博士後期課程連携教育プログラム：共同講義「体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ」を実施した。
- (3) 連携大学院交流会の実施：本学博士後期課程の大学院生、連携大学院教育プログラムを活用する大学院生、本教育プログラムに参画する教員を対象として、博士後期課程の学生による発表や研究に関する意見交換などを行った。
- (4) 広報活動の実施：本教育プログラムを利用した本学修士課程・博士後期課程への入学希望者を募集するために、本学教員、教務課職員が熊本大学、宮崎大学の学生を対象に大学説明会を開催した。
- (5) 報告書作成業務：令和 6 年度の本プロジェクトの実施内容を報告書としてまとめた。
- (6) 遠隔授業の支援：Webex 等を利用した遠隔授業開講時のトラブルの対応を行った。

＜令和 6 年度会議実施表＞

日 時	会 議
R5 年 5 月 15 日	第 1 回 ワーキング (令和 6 年度事業計画および予算について等)
6 月 10 日	第 1 回 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発委員会 (予算、論文博士取得支援プログラムの申請について、連携大学院交流会 等)
6 月 26 日	第 1 回 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム協力者会議 (予算、論文博士取得支援プログラムの申請について、連携大学院交流会 等)
9 月 5 日	第 2 回 ワーキング (共同講義、連携大学院交流会、説明会実施報告 等)
10 月 7 日	第 2 回 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発委員会 (連携大学院交流会、本年度の授業実施状況について 等)
10 月 18 日	第 2 回 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム協力者会議 (連携大学院交流会、本年度の授業実施状況について 等)
12 月 3 日 (書面会議)	第 3 回 ワーキング (令和 6 年度予算の見直しについて)
12 月 13 日 (書面会議)	第 3 回 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発委員会 (令和 6 年度予算の見直しについて)
R7 年 3 月 27 日 (書面会議)	第 4 回 ワーキング (令和 7 年度連携大学院共同講義授業担当教員について、令和 6 年度プロジェクト実施報告書について)

3.令和 7 年度事業実施計画

3. 令和 7 年度事業実施計画

令和 7 年度の事業実施について以下を計画している。

令和 7 年度は、修士課程、博士後期課程に関する連携教育プログラムの更なる充実した運用を進める。また、九州地区における修士課程、博士後期課程の連携の拡大を引き続き図ると同時に、九州地区以外の大学への点かきも模索し、さらに、包括協定を行った国立台湾体育運動大学との研究協力等を進めていく。さらに、連携大学院在籍者への指導の強化や交流を図り、今後の受験者の拡大策を検討していく。

教育プログラムに関しては、修士課程連携共同講義「身体教育特講Ⅰ」「身体教育特講演習Ⅰ」の内容の見直し、博士後期課程の評価システム（ルーブリック評価）の作成を進めていく。

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発プロジェクト

プロジェクト実施報告書

2025 年 3 月 31 日 発行

編 著 者：森 司朗

発 行：体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム開発プロジェクト事務局

住 所：〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町 1 番地

TEL & FAX：0994-46-5128
